

2019年8月6日
九州旅客鉄道株式会社

2020年3月期第1四半期決算電話会議 主なQ&A

Q 鉄道旅客運輸収入における在来線・定期外の伸びが高いが、これは久大本線の復旧によるものなのか。他に特殊要因があれば教えてもらいたい。

A 昨年7月に復旧した久大本線の影響もあるが、GWの長期化（10連休）による影響の方が大きいとみている。

Q 重要な後発事象として、「7月の大雨の影響により復旧費用の支出が見込まれる」と記載されているが、収入への影響があるのか教えてほしい。

A 新幹線が一部運休したものの、主に運休したのは九州南部の在来線であり、収入への影響は軽微であると考えている。

Q 不動産・ホテルセグメントについて、駅ビルに関する収益費用計上区分の変更を考慮すると若干増益であるが、一方で通期は減益予想である。これは上振れしていると考えてよいのか、あるいは想定内ということなのか教えてほしい。

A 第1四半期は想定内である。今後、ホテルの開業経費が出てくるため、通期でみれば減益となる見通しに変わりはない。

Q 日韓関係の悪化による影響が出ているのか教えてほしい。

A 第1四半期決算への影響はほとんどない。一方で、7月以降、訪日外国人向けのレールパスは韓国向けの販売が鈍化しているほか、高速船事業において、7月は対前年3割減となっていることから、影響を注視しているところである。

Q 長期的な財務戦略を打ち出していくということだが、どのようなものを念頭に置き、いつ頃公表するのか教えてほしい。

A 中期経営計画で2030年のビジョンを掲げており、2030年に向けたKPIを現在検討中である。公表時期についても、同様である。

Q 路線別収支を公表するという報道があるが、公表時期及び開示することになった背景を教えてほしい。また、路線別収支とMaaSの公表を同時並行に進めていると考えてよいのか。

A 当社としては、人口減少が進む中で地域の交通について、自治体や住民と一緒に考えていかなければならないと思っており、収支の公表を検討している。公表する範囲や時期については検討しているところであり、準備出来次第公表する。

路線別収支の公表とMaaSは直接的に関係しない。MaaSについては、他社との連携を進めているが、まだ実証実験の段階であり、同時に進められるものではない。

以上